

### 国立病院機構 静岡医療センター



看護師) が在籍するなど、コミュニケーションも非常に優秀で学ぶことも多く、さらに関係性が良いため働きやすいことも魅力です。官舎は新築で病院に近く、自然豊かな美しい景観や雪が降らない温暖な気候、新鮮な海産物など食にも恵まれ、住環境の良さも自慢です。

多彩な症例や手技を実践的に経験し、国際的な医療も学べ、働きやすく生活もしやすい。当院でなら、どこよりも充実した楽しい研修生活を送っていただけると確信しています。

われわれの多くは「無尽蔵な体力」や「オールマイティな知識」を持ち合わせていないと思います。そこで大切な「3つの能力」を磨くことをメッセージとさせていただきます。

- 1. Grit**  
—— やり遂げる力
- 2. Positive mindset**  
—— 前向きな考え方
- 3. Reflective practice**  
—— 省察的に実践できる力

皆さんもぜひ、今後、省察の実践力を磨いて医療人を目指していただきたいと思います。



**PROFILE**  
 出身地 : 島根県浜田市  
 出身大学 : 福岡大学 (2004年卒)  
 宝物 : 息子  
 座右の銘 : Chance favors the prepared mind.



**PROFILE**  
 出身地 : 神奈川県伊勢原市  
 出身大学 : 昭和大学 (1986年卒)  
 宝物 : 留学時代のフランスの絵葉書  
 座右の銘 : 努力は人を裏切らない



国立病院機構  
**静岡医療センター**

所在地 〒411-8611  
 静岡県駿東郡清水町長沢762-1  
 WEB <https://shizuoka-mc.hosp.go.jp>

病床数 **450** 床 診療科数 **27** 科

[ 診療科目 ]  
 内科、脳神経内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科

外来患者数 **456.8** 名/日  
 救急外来患者数 **10.8** 名/日  
 入院患者数 **336.0** 名/日  
 救急車搬送患者数 **7.0** 名/日

静岡医療センターのある街

静岡医療センターのある清水町は、静岡県東部地域の中心都市である沼津市と三島市の間に位置し、湧水量日本一の柿田川湧水群があり、富士山の雪解け水がわき出てくる「湧き間」を見ることができ、北に富士山、東に箱根連山を望み、素晴らしい景観と温暖な気候に恵まれた地域である。周辺には有名な温泉地やおいしい海産物が食べられる沼津港など、楽しめるスポットもたくさんある。

### 実践的な臨床と国際的医療が学べる 働きやすさと住環境の良さも魅力

静岡医療センター 院長 **中野 浩**

当院は、循環器、がん、救急、総合診療を4本柱とし、急性期から神経・筋疾患、重症心身障害を中心とした慢性期まで幅広い診療を提供しています。

多彩な症例を実践的に研修できることが特徴的であり、たとえば心臓血管外科では解離性大動脈手術の第一助手として入るなど、希望によって高度な手技も経験することが

できる環境にあります。さらにER(北米型)救急における「HMEP(ハワイ大学医学教育プログラム)」や、米国臨床研修をサポートする「JSプログラム」を導入するなど、国際的な臨床教育を学べることも大きな特徴です。

最先端で高度な医療現場には欠かせない優れた臨床工学技士や、ナース・プラクティショナー(診療

#### HMEP × 指導医メッセージ

### 国際標準の医療を学ぶことができる ハワイ医学教育プログラム「HMEP」

静岡医療センター 救急科 医長 **大屋 聖郎**

当院では、軽症から重症まで疾患を問わず救急患者を受け入れるER(北米型)救急を実施し、さらにハワイ大学と提携した医学教育プログラム「HMEP」の導入により、救急医療を通して国際標準の臨床スキルを習得できることが特徴です。

当院の「HMEP」では、卒後教育だけではなく、2020年4月からポリクリを受け入れ、卒前教育にも展開するという全国にはない取り組みを行っています。また、USMLEの受験や米国臨床研修をサポートする「JSプログラム」を2019年から実施し、2019年度はアメリカレジデンシーに挑戦した全員が希望のポジションにマッチしました。

米国を目指す研修医でなくとも、米国医師から直接レクチャーを受けたり、ネット回線で米国のカンファレンスに参加したり、米国の医師にこちらの症例を診てもらいディスカッションを交わすなど国際的な医療を学ぶことで、医師としての視野を広げ、視座を高めることができるでしょう。将来、どの分野に進むにしても有意義な研修となるはずで